

道の駅鹿島整備事業

～有明海との一体感をメインとし、賑わいを創出する拠点づくり～

鹿島市 産業部 商工観光課

1. はじめに

鹿島市は、佐賀県の南西部に位置し、人口約 28,000 人、総面積 112km²、東を有明海、西を多良岳山系に囲まれた自然豊かなまちです。かつては佐賀藩主鹿島鍋島家が支藩を構えていた城下町でもあります。(図-1) 観光面においては、日本三大稲荷のひとつである祐徳稲荷神社に年間 280 万人の参拝客が訪れています。また、長崎街道多良往還の宿場町として栄えた肥前浜宿は平成 18 年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定され、白壁土蔵の町並みが続く通称“酒蔵通り”では例年 3 月末に行われる市内 5 酒蔵による同時蔵開きイベントが開催されメイン会場として大変な賑わいを見せています。

この 3 月末の同時蔵開きは、本市の日本酒が世界的なワインの品評会で世界チャンピオンを受賞した事を契機に始まった「鹿島酒蔵ツーリズム[®]」のメインイベントで、国を始め多くの関係者の方々に注目して頂いているところです。

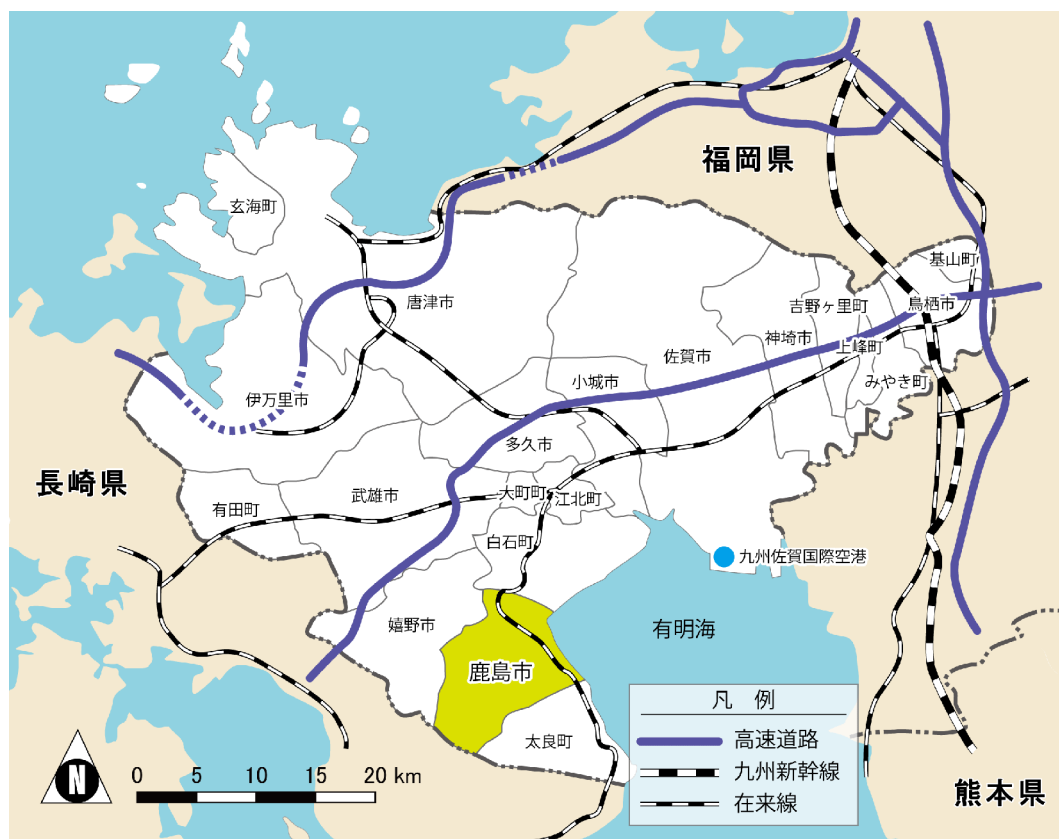


図-1 鹿島市の位置

2. 道の駅の概要

道の駅鹿島は、国道 207 号線沿いの七浦地区音成に設置されており平成 6 年に県内で 1 番目に登録がなされました。(図-2) 施設の概要は次の通りです。(写真-1~4)

設置者	鹿島市
管理運営者	株式会社七浦
総敷地面積	27,988m ²
主な施設	直売所、バーベキューハウス、干潟展望館、干潟交流館 温水シャワー、体育館、駐車場等

この道の駅鹿島ですが、その成り立ちが他の道の駅と少し違ってしています。というのは、はじめから道の駅をつくらうとして道の駅をつくっていないところなんです。ん？どういうことだろうと思われるかもしれませんが、成り立ちについて少しお話します。

この道の駅鹿島がある場所は、海岸沿いの元々海だったところを昭和 51 年に発生した豪雨災害の残土処分場として埋め立て始めたのがはじまりで、昭和 58 年から「鹿島市七浦海浜スポーツ公園」として、体育館、プール、駐車場等が整備されました。

その後、目の前に広がる有明海の干潟を活用し、まちおこしにつなげようと、地元有志により「第 1 回鹿島ガタリンピック」(写真-5) が昭和 60 年に開催されました。このガタリンピックがメディアに取り上げられ、認知度が高くなったことから少しずつ観光客が増加し、昭和 62 年にお土産物などを販売する「干潟物産館」がオープンし、平成 3 年に「干潟展望館」平成 4 年に農林水産物直売所「千菜市」と随時施設を拡充し、平成 6 年に県内で初めて道の駅として認定されました。つまり、海浜スポーツ公園として整備を始めたが、時代のニーズに答えながら施設整備を行ってきた結果、道の駅としての登録に至ったということです。

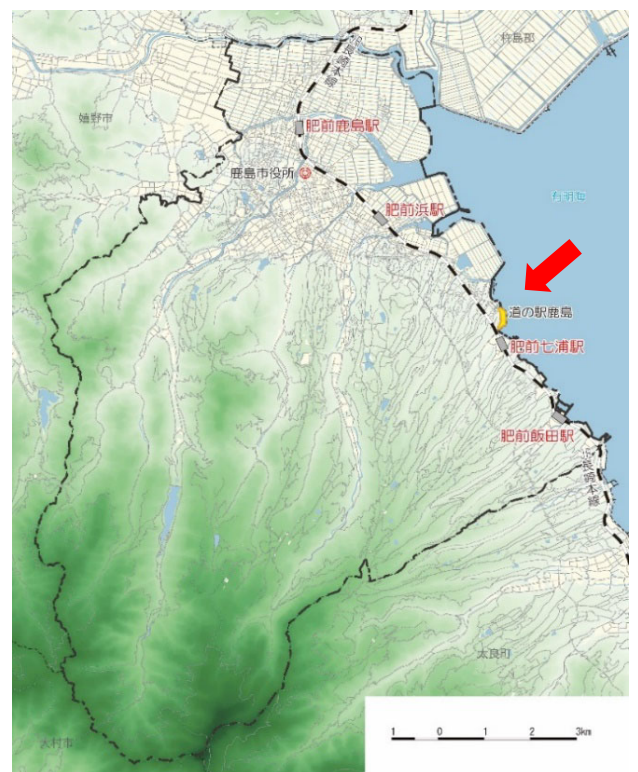


図-2 道の駅鹿島 位置図



写真-1 道の駅鹿島全景



写真-2 直売所 (千菜市)



写真-3 バーベキューハウス



写真-4 干潟展望館



写真-5 鹿島ガタリンピック

3. 整備計画の策定

道の駅に登録されて以降も順調に利用者が増えてきた中で、なぜ道の駅の整備を行うことになったかという、平成27年1月に道の駅鹿島が重点「道の駅」の選定を受けたことがきっかけです。この重点「道の駅」に求められるものは、簡単に言いますと「地域活性化の拠点となる優れた企画があり、今後の重点支援で効果的な取組みが期待できるもの」であります。よって、この選定を受ける際に提示した企画を具体的なものとするために道の駅鹿島整備計画を策定する運びとなりました。

この整備計画の策定にあたっては、学識経験者をはじめ、市観光協会、市商工会議所、市区長会、漁業協同組合、農業協同組合、七浦地区振興会（地元）及び行政などさまざまな機関から有識者を招聘して「道の駅鹿島整備計画策定協議会」（以下「協議会」という）を組織し、協議を行いました。以降が協議した内容などです。

(1) 現状の課題と取組みの方向性

協議会の中で、グループワークを通して現状の課題の整理及び解決の方向性について議論を重ねました。結果、大きく分けて5つの分野の課題について、基本的な考え方をまとめました。（図-3）

道の駅鹿島の課題

■道の駅鹿島 ～道の駅自体の課題解決の方向性～

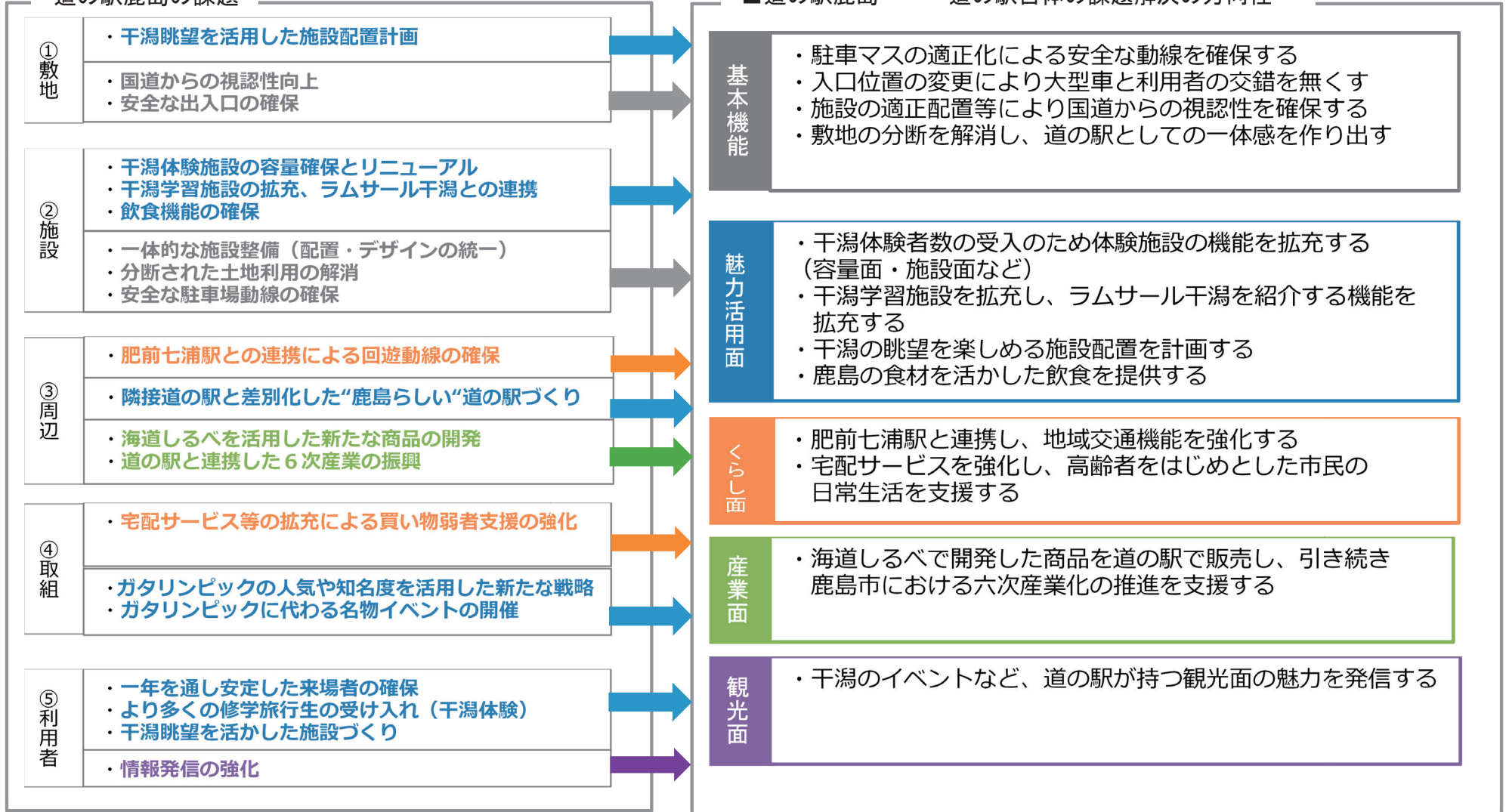


図-3

(2) 目指すべき将来像と基本理念

目指す将来像としては「鹿島市の魅力に溢れ、来場者が満足する道の駅を作ることにより、市民生活・福祉、産業振興、観光振興等に貢献し、地域活性化に資する拠点の1つになることを目指す」ことであり、基本理念に「受け取って！干潟からのメッセージ～地球のぬくもりを体で感じる「道の駅」～」を掲げ取り組んでいます。

※基本理念補足：鹿島市には有明海の干潟や農産物・海産物のなどのさまざまな魅力があり、道の駅鹿島にこれらを詰め込んで、他の道の駅では体験できない“五感”で魅力を感じることができる道の駅を目指します。

(3) 基本方針

前述した将来像や基本理念を具体化するため、以下に示す4つの基本方針を設定しました。

基本方針①：地域の“魅力”を活かした人が集まる道の駅をつくる

体験・学習	有明海の貴重な干潟を活かした、魅力ある体験・教育の拠点づくり
眺望	有明海の眺望を活かした、魅力ある景色を楽しむ場所づくり
海の幸・山の幸	鹿島の豊富な“幸”を活かした、販売や飲食の場所づくり

基本方針②：日常生活や福祉など“暮らし”の支えとなる道の駅をつくる

地域交通	移動弱者を支える地域交通の拠点づくり
生活	高齢者の買い物など日常生活を支援する仕組みづくり

基本方針③：“産業”の活性化に貢献する道の駅をつくる

6次産業化	海道しるべと連携した6次産業の拠点づくり
起業・雇用	起業に向けた新たな挑戦の受け皿づくりと雇用の創出

基本方針④：“観光”の活性化に貢献する道の駅をつくる

ゲートウェイ	観光地と連携した鹿島観光のゲートウェイづくり
新たなニーズ	インバウンドや着地型観光など新たなニーズに対応する仕組みづくり

(4) 導入施設および連携施策の決定

基本方針に応じた候補策をハード・ソフトの両面から抽出し、それぞれについて今回の整備計画に対する適応性を評価し、導入の可否について検討した結果、次表のような内容の施設整備、施策を決定しました。(図-4、5) これらの機能を充実させることにより、都市住民や外国人といった観光客を重要なターゲットとして、より長時間滞在してもらえ、またリピーターとして来てもらえるような魅力ある道の駅となることを目指し、これらの整備計画を推進することとしました。

ハード施設およびソフト施策のまとめ

(1) 基本機能

基本機能の充実に向けた新規・既存施設の活用、施設の機能（基本的役割・活用方法）を整理します。

機能	個別の施設・施策		施設名称	新規・既存施設の活用		施設の役割	
	ハード施設	ソフト施策		分類	理由	基本的役割	活用方法
	・トイレの改修	-	トイレ	活用	・既存施設を活用しつつ、全体バランスに応じた配置が必要	①基本機能（トイレ）の提供	①災害時は避難者に開放する
休憩	・駐車場の改修 ・入口位置の適正化	-	駐車場	活用	・車両と歩行者動線が交錯しない配置と動線計画が必要	①基本機能（駐車）の提供 ②道の駅内の安全性確保 ③国道からの視認性向上	①災害時は物資輸送などの広域拠点機能を発揮する
			入口	新規	・道の駅内の安全な動線確保のためには入口を南側に変更することが不可欠 ・国道から道の駅の視認性を向上させることが必要		
情報	・案内施設（観光・道路・地域）	-	(観光総合案内所に統合)		(観光総合案内所に統合)		

赤文字：優先度1 青文字：優先度2

(2) 基本方針に応じた各種機能

ハード施設およびソフト施策の優先度を踏まえてこれらを集約し、それらについて新規・既存施設の活用、施設の機能（基本的役割・活用方法）を整理します。

○道の駅内

機能	個別の施設・施策および優先度		集約した施設・施策	新規・既存施設の活用		施設の役割	
	ハード施設	ソフト施策		分類	理由	基本的役割	活用方法
干潟体験・学習	・体験施設(シャワー・更衣室) ・フリースペース、広場 ・学習室 ・ミニ水族館 ・展望デッキ	・干潟ニュースポーツ ・伝統漁体験 ・ラムサール干潟ビジターセンター ・大学との連携	干潟交流館	新規	・干潟体験人数の拡大に向けた施設容量の確保が必要 ・干潟を賢く使うため、体験と学習をセットにした施設が必要	①干潟体験の支援（シャワー・更衣室の提供） ②干潟の学習（生態系・環境）	①肥前鹿島干潟のビジターセンター ②車中泊者へのシャワー提供
干潟眺望	・公園 ・広場 ・オープンテラス		干潟眺望広場	新規	・干潟を活かした施設の一体感、眺望、景観の観点から、屋外のオープンスペースの確保が必要	①干潟との景観的な一体感 ②公園から干潟の眺望	①イベント会場（カキ小屋） ②干潟体験のヤード
販売・飲食	・既存施設：干菜市の活用	・販売イベント ・フードイベント ・アンテナショップ	直販所	活用 (干菜市)	・平成21年度にリニューアルしており、機能や容量とも十分に既存施設の活用が可能	①農林水産品の直売 ②オリジナル商品の販売	①食に関するイベントの開催 ②アンテナショップによる商品の情報発信
	・食処 ・カキ小屋	・チャレンジショップとの連携	飲食施設	新規	・飲食と名物カキ小屋の充実のため、新たな飲食施設およびカキ小屋が必要	①飲食物の提供（通年） ②カキ焼きの提供（冬期）	①食に関するイベントの開催 ②ご当地グルメの提供

図-4

機能	個別の施設・施策および優先度		集約した施設・施策	新規・既存施設の活用		施設の役割	
	ハード施設	ソフト施策		分類	理由	基本的役割	活用方法
交通拠点 二次交通	・バス停留所（観光面） ・自転車駐輪場（観光面）	・交通政策(循環バス、シャトルバス、デマンドタクシー) ・観光交通手段(観光循環バス、レンタサイクル、コミュニティサイクル)	観光二次交通施設	新規	・観光客の市内回遊性を高めるため、拠点間を結ぶ二次交通手段が必要であり、道の駅にも交通関連の施設が必要	①観光循環バスやシャトルバスなどの発着地 ②レンタ・コミュニティサイクルのサイクルポート	①観光案内所と連携したインバウンド向け総合サービス ②一般市民の利用による地域交通としての役割
生活支援	・移動販売車 ・宅配車	・EVスタンドの活用	移動販売・宅配ステーション	活用 (EVスタンド)	・既存のEVスタンドを活用し、一般車の急速充電や移動販売等の拠点として活用が可能	①一般車の急速充電 ②移動販売等の拠点	①EV自動車を用いた移動販売や宅配による買い物弱者支援
開発・チャレンジ	・オリジナル商品の陳列場所 ・チャレンジショップ ・コワーキングスペース	・アンテナショップ	チャレンジショップ	新規	・道の駅を利用した産業振興のため、チャレンジショップの併設が必要（簡易施設）	①チャレンジの受入機能（オリジナル商品販売、飲食店など）	①食に関するイベントの開催
観光窓口	・観光案内所の設置（総合案内）	・体験型観光の紹介	観光総合案内所	新規	・市内観光や地域情報の充実のため総合案内所が必要	①観光総合案内所（総合案内、インバウンド案内）	①観光交通施策と連携したインバウンド向け総合サービス
インバウンド	・観光案内所の設置（インバウンド） ・多言語案内板	・カテゴリーの昇格 ・多言語コンシェルジュ(タブレット端末利用)	案内施設（道路・地域情報） 多言語案内施設	新規	・インバウンド観光の受入のため外国人向け案内の充実が必要	②案内端末（道路・地域情報） ③外国人向けタブレット端末	②産学連携による外国語案内

〇道の駅外（鹿島市内）

機能	個別の施設・施策および優先度		集約した施設・施策	新規・既存施設の活用		施設の役割	
	ハード施設	ソフト施策		分類	理由	基本的役割	活用方法
生活支援	・サテライト販売		サテライト販売所	新規	・買い物弱者支援の充実に向けたサテライト販売の拠点が必要	①遠隔地における販売拠点	①EV移動販売車を活用したサテライト販売の実施
開発		・海道しるべの活用	オリジナル商品開発	活用	・6次産業化に向けた商品開発等海道しるべの活用が可能（継続）	①オリジナル商品開発 ②新しいご当地グルメの開発	①道の駅への出荷・出店

赤文字：優先度1 青文字：優先度2

図－5

4. 整備状況について

先に示した整備計画の中で最も優先したのが【干潟体験・学習】のハード整備です。(図-4 赤枠) なぜかという、現状の干潟体験施設の容量(体験後に使用するシャワーや更衣室の数)では全ての修学旅行生等を受け入れることができず、受け入れを断っていたため干潟体験者数が伸び悩んでいたからです。そこで平成29年度より、1階が干潟体験時に使用するシャワー室、2階がミニ水族館と干潟学習室を有する「干潟交流館」の建設を始めました。このミニ水族館では、有明海に生息する水生生物を観察することができます。平成31年4月に開館しましたが、初年度は目標来館者数を大きく上回り順調な滑り出しとなりました。(写真-6、7)



写真-6 干潟交流館



写真-7 ミニ水族館

次に、取り組んだのが【休憩】のハード整備「駐車場の改修及び入口位置の適正化」です。(図-4 青枠) 現在の道の駅出入口は、国道のカーブ区間にあり視認性や交通安全に問題があることと、大型車は、駐車マスの配置上直売所の前を通過していかなければならないため、直売所利用者と交錯する危険な状態であるため、これらの問題点を解消する必要性がありました。そこで、出入口の位置変更に伴う国道207号の線形改良や大型車の駐車マス再配置に伴う道路区域の見直しなどについて県と協議を重ね、令和2年度より整備事業に取り掛かりました。(図-6、7) 事業実施にあたっては、県と事業区分及び費用負担について基本協定を締結し、県・市が連携して取り組んでいます。(写真-8、9)

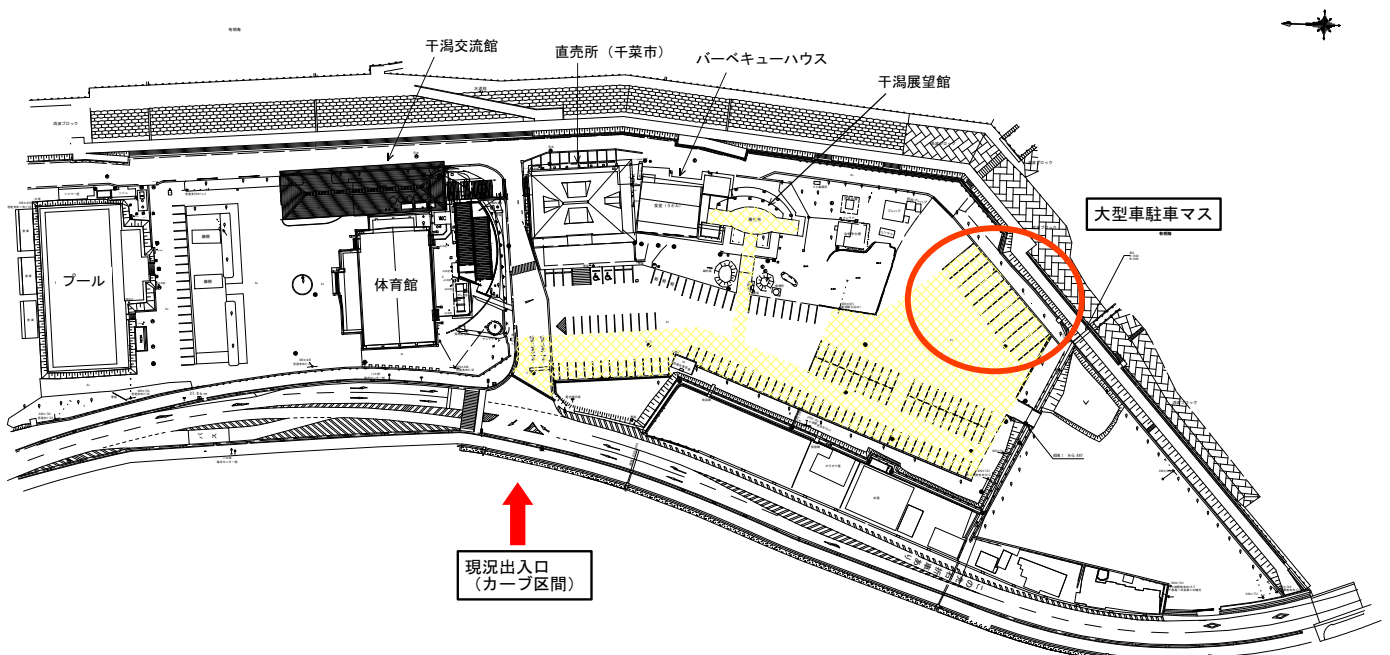


図-6 現況道路区域(着色部)

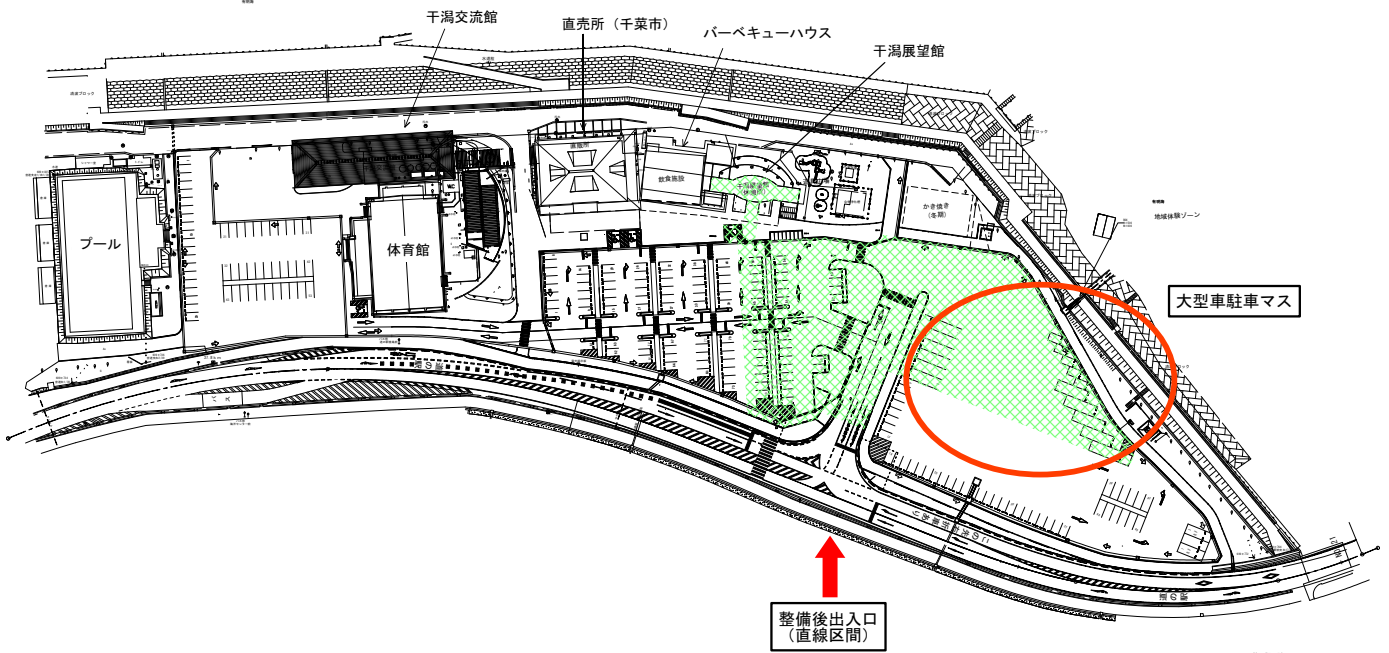


図-7 整備後道路区域 (着色部)



写真-8 令和3年度駐車場工事 (着工前)



写真-9 令和3年度駐車場工事 (完成)

5. 道の駅鹿島が目指すところ

道の駅鹿島は干満差が最大6mにも達する有明海に面しており、全国でも珍しい干潟体験ができる道の駅であります。また、直売所では地域で採れた新鮮な野菜や有明海で獲れた海産物等が豊富にあります。これらの地域資源を最大限に活用し整備計画を具現化することで、地域の産業振興を図るとともに、ひとの交流・モノの流通・情報の発信等、社会的ネットワークの拠点として、地域のみなさまと訪れるお客様に、ますます愛される道の駅を目指していきたくと考えています。

6. おわりに

このように整備事業が取り組めるのも、国・県をはじめご協力を頂いた関係者皆様方のおかげであります。あらためてこの場をお借りして感謝申し上げます。